

令和3年度 第1回下野市健康づくり推進協議会 会議録

- 日 時 令和3年7月8日 午後1時30分～午後3時00分
- 場 所 下野市役所 203会議室
- 出席委員 春山早苗委員、村田光延委員、黒田裕之委員、鈴木美弥子委員、渡邊欣宥委員、上野文夫委員、佐藤とよ子委員、菅井貞雄委員、原安礼委員、鈴木久美子委員、小倉康延委員、小平享子委員、大関啓子委員、小島恒夫委員、木村千里委員、田中志保委員、大橋俊子委員、川嶋美恵子委員、長塚章委員
- 欠席委員 無し
- 事務局 福田健康福祉部長
近藤健康増進課長
成人保健グループ：横田主幹、中里主幹、舘野主事（保健師）
- 傍聴者 自治医科大学看護学部学生4名
- 配布資料 会議次第
下野市健康づくり推進協議会委員名簿
資料1 成人保健事業概要について
資料2 母子保健事業概要について
資料3 健康しもつけ21プラン 地域団体の取り組み《令和2年度評価表》
資料4 健康しもつけ21プラン 庁内各課の取り組み《令和2年度評価表》
下野市健康づくり推進協議会設置要綱
健康しもつけ21プラン（第3次）概要版
健康しもつけ21プラン啓発資料一覧
ラジオ体操マップ～しもつけ～
下野市における高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施について
新型コロナウイルスワクチンの接種状況について
1. 開会 （開会、進行：事務局 中里）
 2. 委嘱状交付 委嘱状を交付（福田部長）
 3. あいさつ （春山会長）
会長を務めております自治医科大学看護学部の春山です。今年度第1回の健康づくり推進協議会となりますが、相変わらずコロナについては予断を許さない状況が続いております。ワクチン接種なども進み、このような状況が1年以上続いていることから、コロナ対策、対応というものが分かってきたところがあります。
やはりコロナ禍でも、健康を維持・増進していけるよう、こちらの協議会で活発な意見交換が出来ればと思っております。本日もよろしくお願いいたします。
 4. 自己紹介 名簿順に、委員からの自己紹介
 5. 議事
(事務局) では次第5番の議事に入らせていただきますが、協議会の設置要綱第6条により会長が議長となることが規定されておりますので、以降の進行につきましては春山会長にお願いいたします。
(春山会長) それでは議事に沿って進めさせていただきたいと思っております。まず議事(1)ですけれども保健事業の概要ということで成人保健事業、母子保健事業について事務局から説明をお願いいたします。
(事務局) 資料1・2に基づき説明

- (春山会長) ありがとうございます。コロナの関係で集合して行う事業がかなり中止になったりしています。そして個別に実施する部分は例年並みになっているところもあります。皆様の方から何か質問やご意見とかございますか。お願いいたします。
- (木村委員) 資料2の母子保健事業の先天性股関節脱臼の検診についてですが、今の説明と資料で令和2年をもって廃止することはわかりました。そこで確認ですが、小児のエックス線撮影による被曝が今、非常に問題視されています。
そうしますと、先ほどのお話の中で3・4ヶ月の小児に先天性股関節脱臼の受診を推奨していたということですが、今、4ヶ月のときにも同様の検査をする乳幼児健診があるということで廃止になった。そうしますと、4ヶ月になってからの股関節脱臼の検査というのは必ず行って、エックス線撮影も必ず行うという解釈をしてよろしいですか。
- (春山会長) 股関節脱臼については、エックス線撮影をしないで医師が診ます。なので、被曝の心配は大丈夫かと思えます。
- (木村委員) 分かりました。極めて大事なことなのでお聞きしました。ありがとうございます。
- (春山会長) ありがとうございます。一方で今はどうなんでしょうか、以前は2ヶ月ぐらいで股関節脱臼の検診をしていた時期があったと思うのですが。今は4ヶ月で検診するという流れになっているのでしょうか。
私が保健師をしていた時には、4ヶ月の頃には診断がついてたりしていました。
- (事務局) 近隣の市町での股関節脱臼検診は、下野市で実施していたように整形外科に受診をしてエックス線撮影をするという形で実施しているところはほとんどありません。
大半の市町では4ヶ月の乳幼児健診で、医師の診察で開排制限があるかや関節の動きとかを見ていただき、そこで判断をするという形で行っていると聞いています。
下野市では4ヶ月健診の前に慌てて整形外科に受診をして、それから数日後に4ヶ月健診に来て小児科の先生の診察を受けるというような状況がずっと続いていました。
- (大橋委員) だいぶ前の整形外科医としてコメントさせていただきますと、股関節脱臼については以前は整形外科医がレントゲンを撮ったり、また場所によっては保健所で撮影していた時代がありました。今は股関節脱臼の発症がほとんど無い、母体の環境が良くなったせいもありますが、先天性のものは稀な疾患になっていることもあり、普通の乳幼児健診のところで何か異常があったら専門機関に紹介するというのがほとんどだと思います。
それからレントゲンを撮らずに、エコー、いわゆる超音波検診で股関節を見るというやり方が中心になってきていますので、被曝のリスクは少なくなっている、本当に必要なものにレントゲンを撮る形になっているかと思えますので、補足させていただきます。
また、先ほど母子の報告で資料2の2ページに母乳育児相談の修正がありました。数字的には内数が入っているので、総数については令和2年の初来所の合計は49件、再来所の合計が27件が正解だと思いますので、訂正をお願いします。
- (事務局) 申し訳ありませんでした。
- (春山会長) もう一度事務局から。
- (事務局) では母乳育児相談の令和2年度の初来所は左から、36、23、13、2、49になります。また、再来所は18、2、9、1、27になります。ご指摘ありがとうございます。
- (春山会長) ありがとうございます。他に皆様の方からいかがでしょう。
それでは次の議事に入らせていただきます。健康しもつけ21プランの令和2年度の評価ということで事務局から説明をお願いします。

- (事務局) 資料3・4に基づき説明
- (春山会長) ありがとうございます。コロナの中でもいろいろ工夫をされて取り組まれていると感じました。皆様の方から何かご質問等ございますか。
説明にありました中学校でのzoomによる遠隔授業というのは、中学校によって活用状況に差があるのでしょうか。
- (事務局) 実施については、もともと年明けの1月・2月に開催を予定していましたが、ちょうどこの時期にコロナの感染が拡大してきたところで、なかなか準備が追いつかなかったため、ほかの中学校では実施できなかったというのが現状だと思います。
この1年で学校でもいろいろな工夫をされて、学校の集会を各教室でテレビ視聴で行っていることを伺っていますので、今後はオンライン形式で実施できればと考えています。
- (春山会長) ありがとうございます。コロナの影響もあって、思春期の子どもたちも少なからず影響があるといわれておりますので、大事な取り組みだと思います。
皆様の方から何かございますか。
- (木村委員) 資料4の12ページ、13ページ「休養・こころ」の目標2「ストレスを大いに感じている人の減少」の課題に対しての取り組みについて、健康増進課では12ページが一番下で中学生に対してこころの健康づくり講演会を実施した、13ページでは上から3番目の学校教育課が教職員のメンタルヘルス事業とあります。
私の考え方が違うのかもしれないのですが、事業の対象が健康増進課が中学生なので、これはどちらかというと学校教育課が行い、逆に学校の先生や職員については学校教育課よりも健康増進課のほうが良いのではないかと思います。この辺をどういうふうに振り分けられたのでしょうか。
- (春山会長) 法律に基づいて行っているのですよね。大人と子どもと考えるとそういう感じがしますけれども。
- (木村委員) 法的にはこのように分かれるのでしょうか。
- (事務局) 法的にというか、こころの健康づくり講演会につきましては、健康増進課の方と中学校の養護教諭や学年主任の先生とかと一緒に計画をしています。健康増進課としても中学2年生の不安定な時期に何かアプローチをしたいということで、学校の方に申し出て学校の方でもお願いしたい、というような流れの中で実施しています。
おそらく学校の方としても、講演会は健康増進課で実施させていただいていますが、この他に学校での取り組みとして、もしかしたらここには出てきていないもので、何かしらお子さんのこころに関するところでの取り組みをされているかなとは思っています。
- (春山会長) 思春期の子どもたちの思春期保健は市町村でも担うということになっていて、木村さんの疑問のようにもちろん学校で取り組んでも良いのですが、やっぱり心の問題とかそういったことは結構市町村で引き受けて実施していることが多いですし、もちろん学校の教員や養護教諭と共同して実施します。
大人の方は一般の企業と同じで、職員の体やこころの健康管理はその学校の校長が責任をもって行うという位置づけになっているため、学校教育課が行っています。
ただ、市町村の活動は柔軟ですので、職員についても一部健康増進課が係ったりすることもできます。企業などに市町村の保健師が係って健康づくり活動を実施しているように、学校に係ることもできるかと思います。
- (木村委員) ありがとうございます、勉強になりました。
- (春山会長) 他にいかがでしょうか。では、健康しもつけ21プランの評価はここまでとして、議事(3)のその他に入らせていただきます。
- (事務局) では議事(3)その他になりますが、本日配布いたしました下野市における高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施について、本年度の取り組みを川嶋市民課長よりお話をさせていただきます。

(川嶋委員)

皆様のお手元にあります資料「下野市における高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施について」をご覧ください。

令和元年度の法改正により各市町村において一体的実施の取り組みが徐々に始まっております。県内では、令和2年度に6市町で実施、令和3年度からは下野市を含め10市町で実施しているところです。国としては令和6年には全ての市町村で取り組みが実施されることを目的としています。

こちらの資料の下線部分をご覧くださいなのですが、下野市では令和元年度から関係部署で協議を重ね、今年度から栃木県後期高齢者医療広域連合より委託を受け、医療専門職の保健師1名を健康増進課に配置し、市民課・健康増進課・高齢福祉課の連携のもと、高齢者に向けた介護予防やフレイル予防等の保健事業を行ってまいります。

事業の目的は、資料にある通りとなりまして、対象者は後期高齢者医療の被保険者となります。

事業内容は大きく2点ございます。1つ目が企画調整に関する業務、2つ目が高齢者に対する支援業務になります。支援業務についてはKDB、国民健康保険データベースを活用し、個別支援であるハイリスクアプローチを行いながら、高齢者が集まる場である通いの場等への積極的関与であるポピュレーションアプローチを行ってまいります。

現時点におきましては、健康増進課の医療専門職である保健師を中心に、この一体的実施のあり方を含む基本の方針を策定したばかりであり、実際にはこれから事業を展開していくという段階でございます。

また資料の裏側に一体的実施の市町村における実施のイメージ図が載っております。こちらが厚生労働省のホームページに掲載されているもので、関係機関との相関図がわかりやすく示されておりますので参考にご覧ください。

そしてこの事業を実施することの効果としましては、生活習慣病等の重症化予防、介護予防さらには医療費削減にも繋がると期待されております。事業実施に当たりましては、医療関係団体の皆様、その他健康づくりに関係する機関の皆様との連携も必要でございますので、どうぞご協力くださいますよう、この場を借りてよろしく願い申し上げます。以上です。

(春山会長)

ありがとうございました。

(事務局)

では事務局からお知らせさせていただきます。事前資料として送付しました健康しもつけ21プランの啓発資料になりますが、各団体で使用される場合には必要な部数を健康増進課までご連絡いただければ、印刷のうえお渡しいたしますので、よろしく願いいたします。

続きまして、健康しもつけ21プランについて事務局から説明いたします。

皆様に評価いただいている健康しもつけ21プランは、第三次下野市健康増進計画となっております、平成30年から令和4年までの5か年の計画となっております。

令和4年度、つまり来年度までの計画ということになっておりますので、次の第四次の計画について来年度には策定の段階に入ります。計画策定に入るにあたり、21プランの評価をするために健康実態調査のアンケートを今年度の9月、10月頃に実施します。

(事務局)

その結果を踏まえて、第四次の計画策定を行っていくこととなりますので、その進捗状況につきましては皆様にお伝えしていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

また来年度につきましては、策定委員会を開いて第四次計画を作成していくこととなりますので、またその時にはいろいろとご協力を頂くことになるかと思っておりますので、よろしく願いいたします。

続きまして事務局の方からコロナウイルスワクチンの予防接種について、課長の近藤よりお話をさせていただきます。

それでは本日配付した、新型コロナウイルスワクチンの接種状況について、という資料をご覧ください。市の方で集団接種を実施していきまして、資料の1. 高齢者の集団接種予約状況は、昨日現在では1万7000回ほど予約がされている状況です。65歳以上の高齢者の方は約1万6,000人いらっしゃいまして、集団接種の1回目を約8,600の方が予約をしています。それ以外の方は医療機関での個別接種を予約している状況になります。

現在、水・木・土・日曜日の週4日間予防接種を実施していますが、水・木・土曜日は午後4時間で各日360人、また、日曜日は午前2時間と午後4時間の計6時間で540人の方に接種を行っています。

- (事務局) 集団接種での高齢者の予約状況は約8,600人ですが、実際に接種を受けた状況については、国が開発したワクチン接種記録システムで見ると、昨日現在で1回目を接種した人数が約7,000人、2回目が約3,300人でして、回数としては約1万400回実施しています。それから医療機関で個別接種を受けた状況は1回目が約4,800人、2回目が約2,800人で合計で約7,600回実施しています。
- また、接種率につきましては、65歳以上の高齢者の方は、1回目が集団と個別を併せて73%、2回目が約38%です。64歳以下の方は医療従事者を始め、高齢者施設の従事者などに接種をしまして、1回目が集団と個別を併せて約3700人、2回目が約1,600人で合計で約5,300回実施しています。
- 栃木県のホームページで公表している県内の高齢者の接種率は、1回目が77.9%、2回目が39.59%という接種率となっております。ただ、今後のワクチンの配分状況がはっきりしていないところはありますが、接種が早く終わるように医師会の先生方と協議をしながら進めていきたいと考えております。以上です。
- 事務局からその他での報告等は以上になります。
- (春山会長) ありがとうございました。その他何かございますか。村田先生お願いします。
- (村田副会長) ワクチン接種に関してですが、下野市は職員が頑張っていて、順調に進んでいます。今後は、報道でもありますようにワクチンの供給ペースが減速されるという中であって、次に大事なのは基礎疾患がある方にどう接種していくかですが、基礎疾患がある方まではスピードを落とさず接種をして、あとは供給スピードに合わせれば良いと思います。
- 基礎疾患がある方は、クリニックで個別接種の予約が始まっていますので、個別であろうと集団であろうと基礎疾患のある方にいかに早く接種するか、ということが新たなミッションになりました。
- 65歳以上の方で希望される方は全部予約できています。次は基礎疾患のある方です。個別と集団を同じように供給数を減らすのではなくて、とにかく基礎疾患のある方への接種を最大のミッションとしてワクチンを回していく、という方向で行くのがよろしいのではないかと思います。
- ですが今うまくいってない、非常に喧々諤々です。ですが、そのところが下野市はうまくいくでしょう、と信じたいと思います。
- (春山会長) 他にいかがでしょうか。はい、小島委員お願いします。
- (小島委員) ラジオ体操マップがやっとできました。皆さんのお手元にもありますが、これに関して問題点は、姿川の西側地区で掲載されている団体が全くないということと、南河内地区はグリーンタウンを除いて掲載されている団体がなくことです。
- ですからマップを作成したことにより問題点がはっきりしましたので、ぜひ吉田地区や薬師寺地区にラジオ体操を広めてもらいたい。健康増進課としても、ただ団体が生まれてくるのを待っているのではなく、多少プロデュースをして欲しい。
- それから私は大松山の運動公園でラジオ体操を10年間やっているのですが、これは行政として一切お金が掛からない。ラジオやCDを配布するといったことはありますが、それ以外は行政として一切手間暇は掛かりません。皆さん喜んでやっていますので、1年に1回ぐらい感謝状を出すとか検討してほしい。
- もう一つは小学校など、学校に広めて欲しいと思います。今7月・8月で学校も夏休みになりました。またご存知のように東京オリンピック、パラリンピックも開かれますので、せっかくオリンピックをやるのに何もレガシーが無いというのは寂しいですし、これを機に下野市民6万人の中で、1万人がラジオ体操をするというよう発足させられたらいいかなと思っています。行政としてはどうでしょうか。
- (春山会長) ご意見どうもありがとうございます。事務局からは何か。
- (上野委員) よろしいですか。実はラジオ体操を始めました。場所は烏ヶ森コミュニティーセンターで、今のところ16人が目一杯のフロアで実施しています。メンバーも確保できて実施しているのですが、このマップへの掲載は間に合いませんでした。
- (春山会長) では、またマップをすぐに更新しないとイケないですね。

- (小島委員) もう一つよろしいですか。これは高齢福祉課が担当課と思いますが、自治医科大学で実施している生活支援体制整備事業の生活実態把握調査についてです。私の住んでいる栄町四丁目が調査対象になるのですが、これまで5、6年間あちらこちらの自治会に自治医科大学が調査をしています。その調査結果を地元で紹介する、そうすることで高齢者のサロンなどが出来てきました。
- ちょうど春山先生もいらっしゃいますので、これまで何自治会に対して実施したのかや、これからの方針などをお聞きしたい。それとこの事業は高齢福祉課と健康増進課のどちらが担当しているのかも併せてお聞きしたい。
- (春山会長) この事業は高齢福祉課と協同して実施しています。本当にお金と手間がかかるので、地道に行っていますが、自治会数は相当ありますので、その中で実施したのは、菅井委員、10何自治会になりましたでしょうか。
- (菅井委員) もう少しいつています。4年目になりますので。
- (春山会長) 20自治会まではいっていないですよ。それぐらいになります。
- (菅井委員) 私、自治会長連絡協議会として、それぞれからの依頼があつて、各自治会の方でお手伝いや取りまとめをするというような、協力をしています。
- 確かにこの調査をやっていただくと、先ほど話に出た高齢者の集まる地域ふれあいサロンができるということがありますので、非常に期待しています。
- 65歳以上の高齢者を含めて調査をしますので、意識が全然変わってくる。その質問内容に回答することによって、自分たちの意識が変わってきます。質問はちょっと細かく項目がたくさんあるので、最後まで諦めずに回答してくれるかというところはありますが、自分たちの意識が変わっていくという点で非常にありがたいと思っています。ぜひ、また今年もよろしくお聞きしたいと思っています。
- (小島委員) これは、素晴らしい取り組みですので、より多くの市民に知ってもらうことが必要かと思えます。何か良い方法があればとは思いますが、よろしくお聞きします。
- (春山会長) 高齢福祉課の方々と相談しながら実施できればと思います。後ろで傍聴している学生も今年の調査に係らせていただきますが、去年もコロナでどうかと思つたのですけれども、地域の方からしますと、やはりすごく気になる高齢者っていうのは把握されています。しかし、グリーゾーンにいる高齢者の方の状況がわからないので、調査を機会にどのような様子か把握してきて欲しいということもあって、今年も同じような形で実施していきます。
- 下野市は大きな市ではないですが、やはり地区によってかなり状況が違うので、そういうことも自治会ごとに示させていただいておりますので、機会があったらより多くの市民の方々と共有できれば良いのかなと思います。
- また、今度地域で行っているふれあい会議のような、地域の人たちとその地域の福祉のことを考えるところに国際医療福祉大学の学生と共に呼ばれていて、そこで学生なりの意見や感想を言わせていただくことを予定しています。よろしくお聞きいたします。
- それでは、原委員、コロナにおける学校の状況などをお願いします。
- (原委員) 学校に関しては、私が一番気になるのは、いじめ、心の休養についていろいろな話があつたと思いますが、なかなか表に出てこないいじめや心の問題、メンタルなところに力を入れていただければと思っています。
- あとは、健康に関することだと、私は喫煙者ですが、受動喫煙の案内が私のところに来てなかったの、漏れなのか対象になっていないのかは分からないのですが、仮に自分の子どもにも影響が出るっていうことになると、やはり気をつけなければいけないし、もしかしたらもうきっぱり止めないといけませんのかもしれないです。そういった情報を特定の場所だけではなく、市全体で実施していただければと、今日の会議を聞いて思いました。
- (春山会長) ありがとうございます。子どもたちのメンタルヘルスの問題は、コロナの影響はどうでしょうか。
- (原委員) 市のPTA連絡協議会の方で話が出たのは、とある中学校で今不登校の子が各クラス1、2名いるという話は伺いました。それはコロナになってからだそうです。

- (原委員) やはりコロナの影響でなのか、私は詳しくはわからないのですが、そういうふう
に増えているのは確かです。それをこの場で話し合うべきなのかわかりません
けれども、やはり気にするべきことなのかなと思います。
- (小島委員) その件ですが、私は学校運営協議会、コミュニティスクールの委員をしてい
て、ある学校の委員なのですが、1つの学校で30名ほどの不登校がいる。
今、原委員がおっしゃったのはまた少し違うのかとは思いますが、1年前の
会議で、下野市の1つの学校で30名ほど不登校がいて、そうすると下野市全体で
100名から200名の不登校の子がいることになる。そして不登校になって改善しな
いと、ずっと引きこもりになってしまう。
そんなことが現実では起きているのですが、なかなか表には出ない話なので、
これは本当に由々しき問題だと思います。
私もびっくりしまして、下野市全体で30名ぐらいいるのなら分かりますが、1
つの学校で30名なんですね。下野市内15校ありますので、本当に100人とか200人
いることについて、PTAで協議をされていると思います。
そういったこともありますので、健康増進課として心の問題として子どもたち
の不登校の問題について、その対策は学校教育課になるかと思いますが、健康増
進課でもよろしくお願ひしたい。
- (春山会長) ありがとうございます。事務局から説明があった中学生を対象としたところの
健康づくり講演会、こういったものはすごく大事になってきますので、ずっと続
けられるんですね。まずはここで皆さんと問題を共有できたのが良かったと思
います。
それではそろそろ時間になりますが、田中委員、何かございますか。
- (田中委員) はい、私も子どもと関わる仕事をしておりまして、不登校の子どもを担当した
りとかもしていますので、なかなか大変だということは存じています。
また、どうしても高齢者の健康の方にテーマがなりがちなので、子どももそう
ですし、青年の方、それから働き盛りの方とかへのウェイトを上げられればと思
います。
- (春山会長) では市としてよろしくお願ひします。あとここでもいろいろアイディアを出し
合い、具体的な取り組みに繋がっていけばと思いますので、どうぞよろしくお願
ひいたします。
議事に関してはこれで終わりにさせていただきたいと思いますが、よろしいで
しょうか。では、事務局の方へ進行をお返しします。
- (事務局) では、天気が悪い中、長時間にわたり会議へご出席いただきありがとうございます
でした。以上を持ちまして、令和3年度健康づくり推進協議会の第1回の会議を終
了させていただきます。本日は大変ありがとうございました。